

4月10日(木)熊坂川の満開の桜に見守られ、令和7年度加賀看護学校入学式が行われました。以下に、式辞、歓迎の言葉、誓いの言葉を全文掲載します。

学校長式辞

今年も大聖寺川の桜は見事に満開になり、新しく入学される皆様に祝福しているようです。皆さんと授業や課外活動で一緒にできること、楽しみにしております。

本年の新生は総勢31名、今日から新しい仲間ができました。当校を第一志望とされ入学された皆さん、おめでとう。第一志望ではなかったけれどもどうしても看護師になりたいと当校を選んでくれた人、ようこそ。そして、社会生活を体験された後に看護師を目指される方、その決意にこちら心引き締まります。

我々教職員は先月の卒業式で晴れやかな学生を見て喜び、全員が看護職の資格を取得したことに安堵しました。そして今日、新しく看護の道を目指される皆様に誇らしく、とても嬉しく思います。

さて、現代はすべての職域でDX導入が声高に言われています。皆さんの中でスマホを持っていない人はいないと思います。毎日、TIKTOKを見て、自撮りした写真をSNOWで盛ってインスタに上げ、LINEで連絡を取り合っている。アプリでマックを注文して、PAYPAYで支払って受け取る。私や保護者の皆様が過ごした青春の頃とは社会の様相が一変しています。一生懸命ついでいこうとしていますが、私のような還暦を迎えた人間にとっては、今デジタル用語をしゃべっただけで、無理しとるなと滑稽な姿に映ったことでしょう。

これから目指される看護・医療職というのは、最先端でもきらびやかな世界でもありません。むしろ職業としてはしんどい部類かも知れません。この式辞を作るためにCHAT-GPTに看護師という職業を聞いてみました。そうすると、やりがいや喜びも大きいですが、体や精神的な負担が大きく常に学ばなくてはならない、感染症リスクが高い、と出てきました。入学式の式辞でこのような事を述べるのは不適切でしょう。ですが、もう私の授業は始まっています。今日の式辞は入学される皆さんに、加賀看護学校でどのような授業をしているのかお見せするのが第一の目的と考えたからです。

入学試験の面接で私はご家族に医療関係者はおられますか?と質問しました。半数以上の受験者が、母が看護師です、あるいは兄弟が医療職です、と答えられ、母のようになりたいといわれました。先ほどのAIは看護師は3Kいや7K職場と答えました。それも事実でしょう。ですが、そのような職場であっても、人生の大半を医療職として病める人のために捧げている保護者の皆様が、本日沢山列席されておられます。なぜに看護師を続けることができるのか、それは3Kを凌駕する仕事としての魅力があるからにほかなりません。

きっと思春期は親に仕事のやりがいなんかも聞けないかもしれない。日常会話も「ご飯」「小遣いくれ」とか数語しかしないでしょう。でも、皆様方のお子さんはしっかり背中を見て入学してくださいました。我々学校職員は、大切な生徒を守りながら国家試験合格までしっかりと教育して参ります。

もうひとつ大事なことを言うのを忘れていました。皆さんを教育する地域の方々のごことです。御臨席いただいております来賓の医療機関の方々、保育園、老人介護施設の協力なくしては、皆様にバランスのよい医療者として成長させることは出来ません。皆さんの決意と感謝の心、地域の協力があってこそ看護教育です。加賀市の地域医療にも是非とも興味を持っていただきたいと思います。

我々も精一杯、教育環境の整備に努めることをお約束します。保護者の皆様には成長を暖かく見守っていただきますようお願いいたします。

令和7年4月10日 加賀看護学校 学校長

歓迎の言葉

暖かい春の日差しに包まれ、桜の花が満開となりました。新生生の皆様、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。新生生の皆さんはこれから始まる学校生活に希望を抱きつつも、新しい環境に不安を感じているのではないのでしょうか。私も1年前、今の皆さんと同じように、多くの期待と不安を抱え学校生活をスタートさせました。



看護の学びは、覚える知識や技術も多く、時には自信を無くすこともあります。私自身も技術試験で失敗をして落ち込んだことがありました。しかし、その失敗の経験があったからこそ、自分に足りなかったものに気づき、次に活かすことができました。何より、そのような時に支えてくれたのは同じ志をもって一緒に学ぶ仲間たちでした。日々の技術練習やグループワークでは、お互いにアドバイスをし合い、励まし合いながら一步一步前進しています。一人では難しいことも、仲間と一緒にだから乗り越えられる、それがこの学校での学びの大きな支えです。そして、看護を学ぶ上で何より大切なのが「思いやりの心」だと感じています。相手の気持ちを想像し、寄り添い、支えること。それは、皆さんがこれから出会う患者さんだけでなく、一緒に学ぶ仲間にも向けられるものであるべきだと思います。



これから始まる学校生活は、決して平坦な道ばかりではなく、壁にぶつかることもあるかもしれません。しかし、決して一人ではなく仲間がいて、先生方がいて、私たち在校生もいます。そんな時は、ぜひ遠慮せずに頼ってください。同じ目標に向かって共に頑張りましょう。皆さんがこれから歩む日々が、学びに満ち、笑顔あふれるものとなるよう、心から願っております。

最後になりましたが、今日という特別な日に皆様の新たな一歩を祝福しまして、歓迎の言葉とさせていただきます。

令和7年4月10日 在校生代表

誓いの言葉

暖かな風が心地よく感じられ、色とりどりの花が咲きほころぶ今日、加賀看護学校生として入学できることを心から嬉しく思います。本日は私達のためにこのような式典を挙げていただいたこと、またご来賓の方々からは心のこもったご祝辞をいただき、誠にありがとうございます。私達三十一名は看護師になるという夢を実現させるため、期待と喜びを胸に本日の入学式を迎えました。

私は、幼い頃から祖父母に可愛がられて育ったため、お年寄りの方と接して他愛もない会話をするのが楽しく、将来は介護士になろうと思っていました。しかし、祖父が体調を崩して病院や施設に入ることが増え、次第に家で会話するより看護師を交えて病室で話すことが増えるようになりました。その時看護師は、祖父の身体のケアだけでなく私たち家族の心のケアまでしてくださり、私の心配や不安も和らいだことを覚えています。それから、看護師という職業が患者さんを看病するだけではないことに興味がわき、憧れを抱くようになりました。



看護師という職業は自分一人で働くことはできず、周囲と協力したり支え合ったりすることで、患者さんに最適な看護ができると考えます。私は中学・高校と六年間ソフトボールを続けていましたが、チームプレーである競技を通して、常に、自分ひとりだけでなく周囲の協力によって今自分が成り立っていることを念頭に置いて行動することが重要だと考えるようになりました。それはチームプレーである看護職にとっても必要な力であり、大いにその力を発揮し活かす場所であると思います。

私は、患者さんだけでなく患者さんの家族の方の心のケアもできる看護師になりたいと思いますので、これからの経験も失敗も全て活かし、理想の看護師に近づけるよう努力していきます。

私達はこれから3年間、数多くの知識を蓄え、それぞれの目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら勉学に励みます。その中で、沢山の困難に直面することもあるかと思っています。そのような時はここにいる仲間と助け合い、先生方・先輩方と共に成長していきたいと思っています。同じ看護師になる夢を持つ仲間と支え合い、互いを成長させ夢を叶えられるように、いまこの瞬間から勇敢に歩みを進めることを誓います。

令和7年4月10日 新入生代表